YOKOROU

No.29

AUGUST
2022

横浜労災病院 地域医療連携広報誌



CONTENTS

地域中核病院で行う放射線治療

- ●当院の放射線治療装置のご紹介
- ●当院で放射線治療を行うメリット
- ●先生方へのメッセージ





横浜労災病院|地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院 https://www.yokohamah.johas.go.jp

地域中核病院で行う放射線治療

横浜労災病院放射線治療科の松井とにかと申します。当科は脳腫瘍以外の放射線治療を行っています。

今回は、2022年7月から稼働している新しい治療装置と当科の特色をご紹介します。当院はアクセスが良いことから、勤労世代で仕事前後に通院したい方や高齢者で併存疾患の高度管理が必要な患者さんなど、多くの方をご紹介いただいております。

当院の放射線治療装置のご紹介

当院では放射線治療装置(直線加速器:リニアック)を2台有しており、当科ではこれらを用いて脳腫瘍以外の がん治療を行っています。がん以外の良性疾患でも難治性の甲状腺眼症やケロイド術後の再発予防目的で治療適応 になる場合もあります。

リニアックとは、体外から皮膚を通過させて体内にある病変に放射線(X線・電子線)をあてる体外照射に用いられる一般的な装置です。

当院で有している2台のうち、1台は2014年に導入された「TrueBeamSTX(通称ノバリス)」で、小さな病

巣の形状にあわせた細やかな照射野形成が得意な反面、対応可能な照射野サイズが最大22cmと上限があります。そのため、当科では前立腺癌や早期肺癌など比較的小さな腫瘍や限局した頭頸部癌のIMRT(強度変調放射線治療)などに利用しています。

一方、今回、2022年7月に新たに導入された装置「TrueBeam」は、最大40cmまでの照射野形成が可能なため、直腸癌術前など広範囲の照射に適しています。

どちらの装置もIGRT(画像誘導放射線治療)システムを用いて精度の高い位置照合を行うことでIMRTやSRT(定位放射線治療)といった高精度治療にも一般的な体外照射にも対応できます。そのため、患者さんの病態に応じた装置を選んで治療を行うことが可能です。



Image courtesy of Varian Medical Systems, Inc. All rights reserved.

当院で放射線治療を行うメリット

「TrueBeam」と「TrueBeamSTX」は全国の大学病院やがんセンターといったハイボリュームセンターにも数多く導入されている機種です。理論的には同じ装置があれば同じ治療が可能ですが、ハイボリュームセンターとそうでない施設では治療スタッフの人数に違いがあります。大学病院やがんセンター以外では常勤医1~2名という施設がほとんどであり、中には「TrueBeam」を有しながら常勤医不在という施設もあります。従って、患者さんの紹介先を考える際には、パソコンやスマホと違って「何の機種が入っているか」より「常勤医を含めどれくらいスタッフがいて、どのような治療を行っているか」ということが重要になります。

例えば、小線源治療などリニアック以外の特殊機器を組み合わせた治療は人手を多く必要とするためハイボリュームセンター以外では対応困難ですが、乳癌の術後照射など一般的な放射線治療は経験あるスタッフが一定数いれば 実施可能です。こうしたことから、実施症例数だけみると、地域中核病院の方が多い場合も珍しくありません。

当院で放射線治療を行うメリットとして以下の点があげられます。

(1)患者さんのライフスタイルにあった治療日程が可能

スタッフの人数が限られている以上、無限に患者数を増やすことはできません。

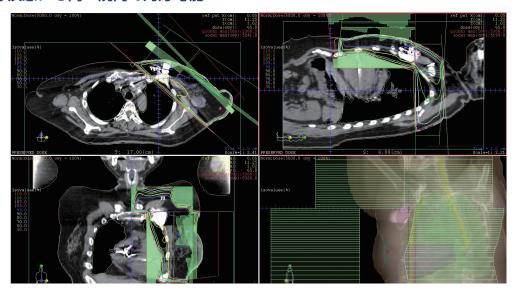
言い換えれば装置 1 台あたりの患者数に余裕があるので、開始日や治療時間に関する患者さんの要望には可能 な限り対応するようにしています。

また、当院は新横浜駅から徒歩約10分(地下鉄の場合、約7分)と交通の便が良好な立地にあり、仕事前や仕事後に通院したい現役世代にもお勧めです。

②高度な管理が必要な併存疾患にも同一院内で対応可能

高齢になるとがん以外の 併存疾患(心疾患、腎不全、 精神疾患等)をもつ患者さ んも増えます。

治療中も他院での投薬治療などは同時並行していただけますが、専門施設でないと対応困難な場合は一時的に当院当該科に紹介することで同じ院内で安心して治療を受けていただくことができます。



先生方へのメッセージ

放射線治療はがんの根治から緩和まで幅広い分野に適応があります。

ただし、患者さんを診察しないと判断しにくい面も多いので、迷ったらまずは相談目的でもご紹介下さい。その際、 以下の2点にご留意いただけますようお願い申し上げます。

①外来通院できる方

当科は入院病床を持たないため、外来通院できる方をご紹介下さい。

禁忌でなければ外来化学療法やホルモン療法を他院で並行して行うことも可能です。

同時併用の場合、副作用が何の影響か判断に迷う場合もありますので、内容がわかれば事前にお知らせ下さい。 実際にご紹介いただくことが多いのは、乳癌術後照射の患者さんです。

2019年時点で日本放射線腫瘍学会医師会員の女性比率は18%(日本女性放射線腫瘍医の会調べ)だそうですが、 当科にはその数少ない女性専門医が常勤でおります。治療に直接携わる診療放射線技師にも女性を配置していま すので安心して治療を受けていただけます。

また、がんの骨転移の疼痛緩和照射など1回で終わる治療もあります。訪問診療中でもご家族などが患者さんを連れてきていただければ外来治療の適応になります(過去に実績あり)。

②一定時間体勢保持できる方

治療時間は1回10~15分程度のことが多く、その間動かないでいられることが必要です。

治療計画時になるべく苦痛の少ない体勢で治療するよう配慮しますが、疼痛の強い方はご自身で事前にレスキュー を使うようにして下さい。

認知症があっても毎日送迎する人の手配ができ、治療中はスタッフの指示に従って決められた姿勢を維持できる方なら適応となります。

横浜労災病院登録医専用電話



医療機関からのご予約は



045-474-8362

受付時間

8;15

19:00

平日:月~金

※土・日・祝祭日及び年末年始を除く



患者さんが予約する場合

予約センターまで

TEL:045-474-8882 平日(月~金) 8:15~17:00 ※土・日・祝祭日及び年末年始を除く